

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4490300227		
法人名	特定非営利活動法人 福祉の里なかつ応援隊		
事業所名	グループホーム こもれびの里 南ユニット		
所在地	大分県中津市大字伊藤田1064番地1		
自己評価作成日	令和6年12月30日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和7年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①施設職員が月に1回地域の清掃活動に参加している。②施設の畑で育てた野菜を少量ではあるが利用者様へ食材として調理し提供している。また畑にある栗の木から取れた栗を毎年渋皮煮にしておやつとして提供できている。③個々のケアプランに沿ってスタッフが協力し介護を行っている。④職員と利用者様が一緒に折り紙の作品づくりに取り組んだり、塗り絵を楽しんでいる。YouTubeで楽しく体操をしたり、午後からは好きな歌を聴き一緒に口ずさんだりして、楽しく過ごしている。⑤季節ごとにお花見や地域の行事に参加できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・自然豊かな環境に位置している。田園風景や近くには桜並木がありのんびりと暮らすことができる。
・家庭的で地域に根差した施設づくりや、利用者の尊厳を第一に考える施設を目指す事を理念に掲げその実現に向けて日々努力している。
・食事は全て事業所で作られており、旬な食材を使って手作りの暖かい料理を食べることが出来る。
・内部研修が充実しており、人権尊重や身体拘束をしないケアの実現に向けての支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、理念の唱和を行い、職員全員に周知してもらい、意識をもって実践につなげている。	理念を事務所に掲示しており毎朝唱和している。家庭的な環境づくり、利用者の尊厳を守りその人らしい暮らしが出来るよう職員全員で意識を持って支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、地域の清掃活動を実施して、職員が主に参加をしている。地域の区長さんや民生委員さんに運営推進会議の委員になっていただき、定期的な情報共有と意見交換をさせて頂いている。	事業所の行事に地域の人参加を呼び掛けるチラシを配布している。地域の神楽保存会のおかぐらが慰問に訪れて来た。施設の活動を知らせるパンフレットを作り地域の回覧板で回してもらうよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、グループホームの業務運営の方法や認知症に特化した支援方法、制度内での決まりに沿ったケア方法などを広く知っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催を定期的に行っている。意見交換を行い、頂いた助言は施設運営に反映させて頂いている。会議の報告は、中津市や担当の包括センターに都度行っている。	2か月に1回開催されている。市に防災に関する講習を依頼したらどうかとの意見が出た。夜間の転倒事故防止にICTを活用したらどうかとの意見と合わせて検討している。参加された家族からは出席して施設のことがわかったと喜ばれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議には、中津市・中津市地域包括支援センター三光園の担当者に参加をして頂いている。施設の運営について報告をし、情報共有を図りながら、多方面のアドバイスを頂いている。(資料確認も含む)	何かあれば直ぐに電話やメールで相談しアドバイスをもらっている。推進会議に出席の時にも相談している。イノシシが出没するので気を付けてほしいとの連絡があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットスタッフ間で声掛けを行い、ホールには常に1名の見守り者を配置し、誰がどこに居るかを確認できる状態で見守り強化を図っている。玄関付近に格子戸を設け鍵をかけないケアをしている。禁止事項の内部研修や周知を行っている。	身体拘束をしないケアについて全職員は研修を受けており、常に意識を持って取り組んでいる。突然立ち上がる利用者にはついて一緒に歩いたりしている。スピーチロックについては直ぐ動作を制止するのではなく理由を説明して、納得して待ってもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束等の権利擁護について学ぶ機会をつくっている。管理者や職員間では、小さなことでも虐待につながらないように、接遇などの内部研修などを繰り返し行っている。(年間の計画に入れて実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・青年後見制度について、テーマを取り上げての研修はできていないが、権利擁護の内部研修時に、内容に少し触れることが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、必要時はその説明と理解を得ている。料金的なことは、都度書面で説明を行って、理解を深めていただいている。契約書や重要事項については、変更があればその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナ感染症が5類に引き上げられたが、市中の状況から、今年度の家族会は実施できていない。都度ご利用者様やご家族からはご意見を伺ったり、ご意見箱設置し投函依頼をしている。家族通信や電話で生活状況をお伝えしている。	面会時や電話で意見などを聞いている。携帯電話に利用者が出ない時は家族は様子を聞くために施設に電話をしている。状態が変わりとりみを付けたり薬が変わるときなど、家族に連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定期的にスタッフの全体会議を実施。意見交換や情報提供の機会を設けている。管理者はスタッフに対して個別に面談を行っている。	いつでも意見などを聞いている。事前に意見を出してもらいユニット会議で話したりもする。休暇については希望が言える。突然の休みにも対応してくれる。管理者は職員が意見などを言いやすい雰囲気を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的、または必要時に管理者が職員と面談を行い、個人的に意見を聞いたり、職場環境についても見直しが出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、現場でのスタッフの業務内容と力量を把握し、それぞれ職員のスキルアップと研修参加を促している。職員に平等に研修の機会を作るようにしている。それぞれのユニットに主任、副主任を配置し、OJTを行いながら指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市内のグループホーム連絡会議に定期的に参加して、情報の交換を行っている。(コロナ禍により相互訪問などは行われていないため参加はできていない)		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、CM、職員がなるべく多くコミュニケーションを図り、ご本人の思いを引き出せるようにし、不安が軽減できるように働きかけている。ケア会議を開催している。アセスメント時に要望を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所をお考えの段階から、本人やご家族にお困りのことなどの情報を聞き、入所時には聞き取った情報をケアプランに反映させ、ご家族に介護の方法や生活の様子をお伝えしている。ご家族にも確認していただき、意見を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の段階で、ご家族の要望を確認して、当グループホームの施設サービスと合致しているかを見極めている。その方にあった支援の情報提供を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様がそれぞれ持っている能力に応じて、生活支援の中で、できるところをご本人に手伝っていただけるように、職員が配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者、CM、職員が出来るだけご家族と会話をする機会をつくり、ご家族にできることを協力を求め、共同で支援を行っている意識を持つように働きかけている。ご本人とご家族の距離が、遠くならない様にご家族に働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者や職員は、ご家族、友人、近隣の知人など面会の機会を大切にしている。ご本人様の生活の様子を詳しくお伝えして、安心をして頂く様に心掛けている。(市中の感染症の状況見ながら緩和している)	感染の状況を見ながら現在はガラス越し面会である。友人が来ることもあるが必ず家族に了解を得ている。退所された人がいて寂しくなった利用者には車でドライブに誘ったりしている。家族と一緒に外出することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を大切にしている。聴力障害がある方が多いため、職員が間に入り会話や関係づくりができるように心掛けている。ご利用者様同士の関係を大切にしてい、助け合えるように、席順など配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に至っても、病院のSWやご利用者様のご家族に連絡を入れて、相談や支援の継続について声をかけている。退居されてもご本人様の様子を伺ったり、ご家族とのつながりが切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接思いを聞き取っている。認知症のため意思を表現できない方は、ご家族に確認をするか、ご本人の様子を観察しながら、思いを察することが出来るようにしている。	普段の会話の中から思いを聞いたり、様子を見て感じ取ったりしている。摂食の状態が悪いときは家族に見てもらいトロミなどに変える事の承諾を得ている。起床や食事の時間は自由である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入居時に、担当していた居宅支援事業所のCMIに情報提供を求めて、個人を理解し内容を把握するようにしている。また、入居後もご本人やご家族に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	④で把握した情報を申し送りやカンファレンスを利用して、状態の把握や情報共有に努めている。管理者、CM、スタッフで日々の生活状況を観察し、必要な介護方法や接し方などを都度話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、ケア会議やカンファレンスを開催し、ケアプランの立案や見直しを行っている。モニタリングを継続的にを行い、課題を抽出しプランに活かしている。	家族に希望を聞いたり職員みんなの意見を聞いている。3か月に1度モニタリングをしている。半年や1年で計画の見直しをしている。入浴の形態を職員の意見を聞いて変更したりしている。申し送りノートにその都度気づいた事を書きカンファレンスで検討することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や介護支援経過に日々の記録を残すようにして、介護計画に反映させている。また、申し送り時に情報を共有できるように伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスのみに偏らない様に、地域やご家族のご協力をお願いしながら、ケアプランに反映させて行きたいと思っている。地域密着型グループホームとして、介護サービス以外にも、ボランティアなどの協力も支援と考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービスの特徴を活かして、地域住民との交流や地域資源を利用できるように、少しずつではあるがご利用者様の支援に結び付けている。地域の行事に参加したり、施設周囲を散歩、コスモス祭りの見学などを行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携をとりながら、慢性疾患や認知症が増悪しない様に、体調管理に努めている。ご家族と協力しながら、病院受診や薬の管理を行っている。	入居前のかかりつけ医をそのまま使うことができる。受診は家族対応である。協力医に受診する時は職員が同行している。訪問歯科を利用している。急変時などは看護職員が医師に電話して指示を仰いですぐ対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が同じ職場内で、情報共有や相談が出来るような体制をとっている。管理者に看護職がいることで、常日頃より医療的な問題は早期に解決できるように心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院の医療連携室と連絡を取りながら、退院に向けて支援を行っている。病院への情報提供や、家族と連携を取りながら関係性を深めている。病院の主治医や現場スタッフ、相談員などと情報の共有ができるように連絡を密にとっている。(コロナ禍で制限があり面会は控えている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況を見ながら、重度化や終末期の書類の確認をさせていただいている。ご家族様のご要望を確認したうえで、ご利用者様の状態に応じ、主治医とご家族様との話し合いをその都度行い書類の内容を見直しながら、施設の対応方法を決定している。	入居時に終末期についての指針を示し承諾を得ている。状態が変わるとその都度希望を聞いている。看取りの経験がある。入院してそのまま特養へ入所する人もいる。施設で看取ってもらいたい希望があれば対応している。訪問看護を利用することも検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらかじめ、急変の恐れがある利用者様については、管理者が職員に指示を出して対応できるようにしている。管理者と連絡が取れるような体制を作っている。職員の連絡網や緊急連絡先を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練(防火訓練)を実施している。自然災害についても運営推進会議などで地域の方にも意見を頂き、対応方法について、施設の考えを伝えている。今年度は、夜間想定避難訓練を実施し、施設理事の方々にも協力が得られた。	水害のハザードマップには入っていない地区である。消防署立ち合いの避難訓練を行っている。夜間想定火災避難訓練では利用者も一緒に外に出る訓練をしている。地区の役員にも参加の声をかけている。備蓄は1週間分ある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に掲げ、職員一同心掛けて いる。気になることがあれば職員間で注意 をしあったり、管理者がその場で指導をする ようにしている。接遇や権利擁護の研修を 行い職員が意識をもって仕事に取り組める ように声掛けをしている。	個室でありドアを閉めれば一人の空間になり プライバシーは守られている。入室時は必ず 声を掛けている。尊厳を傷つけないような声 掛けに心掛けている。内部研修を行い職員 は意識を持って支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己決定の表出が出来るように、管理者、 職員がご利用様に働きかけを行ってい る。できない方は表出しやすいように言い方 を変えたり、職員がくみとることが出来るよ うに努めている。ご家族と連絡を取り、代わり に意見を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけご利用者様の生活のペースで、 お手伝いをするように心がけている。毎日 の生活に変化が持てるように、ご利用者様 と相談をしながら、支援をしている。ご利用 者様の趣味や得意なことを優先して、職員 が働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	ご家族がお持ちになった衣服を中心にその 方にあったコーディネートで職員が選んでお 手伝いをしている。髭剃りや整髪は職員が 声をかけ気配りをしている。ご本人の意向も 取り入れてお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	当施設では、併設の施設内で調理したもの を、昼・夜と提供している。基本的に職員が 準備や後片付けを行っているが、ご利用者 様の意欲や状態に応じて職員が声をかけて 協力を依頼している。(おやつの団子作りな ど)	3食施設内で作っている。手作りである。嚥下 が悪くなると柔らかくしたり食べやすいよう に工夫している。裏の畑で野菜を育てており新 鮮な食材を使うことが出来る。誕生会など 行事食もあり楽しみとなっている。ぼた餅 づくりでは丸めてもらうなど出来る事をやっ てもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事メニューは、施設の厨房で管理をして おり、栄養バランスに心掛けている。現場の 職員が食事や水分が十分に摂れているか、 チェック表に記録をとりながら管理している。 食事以外の捕食を取り入れカロリーや水分 量に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後に職員が管理をしながら、各ご利用 者様が行っている。一人でできない方は能 力に応じて職員がお手伝いをしている。夜 間は義歯の消毒を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った方法で、排泄の手伝いをしている。オムツ装着中の方でも、日中はできるだけトイレでの排泄が出来るように職員と工夫をしている。個々の排泄パターンをアセスメントして、ケアに活かしている。	個々のパターンに合わせてトイレ誘導や見守りを行っている。日中はなるべくトイレに行くようにしている。夜間オムツの人にはその人に合わせたパッド交換をする。夜自分で起きる人は部屋のトイレを使用し、職員が見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜多めで、バランスよく作られている為、完食が出来るように工夫をしている。水分チェック表で飲水量の管理をし、運動が十分できない方は主治医に下剤や緩下剤処方依頼を依頼している。体操などで体を動かす時間をつくっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回を基本としているが、時間はゆっくりとれるように工夫している。状況に合わせ臨機応変に対応できる体制を作っている。ADLにより入浴方法もご利用者様に合った方法で支援を行っている。	週2回の入浴である。拒否する時は無理強いせず、誘い方や日にち時間を変えたりする。シャンプーは自分の好きなものを使っている。季節に合わせた入浴剤や柚子などを入れて楽しい雰囲気づくりを工夫している。冷暖房完備で快適な入浴を楽しむことが出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のバランスが取れない利用者様には日中の過ごし方や眠剤の利用など、主治医に都度相談している。個々の夜間の過ごし方も、状況や要望を確認しながら支援をしている。安眠できるように、日中の過ごし方にも配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者とスタッフが協力し体調の観察を行っている。服薬管理、定期的な受診は主に看護師が行い(家族の協力もある)、主治医や薬局との連携に努めている。スタッフ間で情報共有をし、誤薬に留意しながら、現場スタッフが投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様の嗜好や楽しみなど、個別でそれぞれが時間が取れるように、職員が支援をしている。個人的でなく、他のご利用者様と共有できるように職員が配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人のご要望をお聞きして、自宅への外出を行っている。(ご家族の協力が得られる場合に職員も協力)。施設行事で出かけることが多いが、新型コロナウイルスが5類になり、お誕生日に家族と出かけ食事をしたりする方もあった。状況に合わせ家族と相談し対応を行っている。	桜やコスモス見物など季節ごとの外出支援に心掛けている。地域の行事に利用者と一緒にでかけることもある。インシシが出没するのであまり外の散歩は出れないので、敷地内を散歩して外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理者が利用者様の小遣いを管理して、必要な物の購入や支払いをしている。買い物支援の外出の機会がとりづらく、職員やご家族がご本人様の要望にお答えして、買い物をを行っている。(管理者、担当職員で対応)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴がある利用者様が多いため、電話での会話がしやすいように管理者や職員が手伝いをしたり、手紙を代読しご本人にお伝えできるように努めている。ご本人が電話の利用を希望された場合は職員が手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るように目につく場所に花を飾ったり、ご利用者様の作品を展示したりと工夫を行っている。室温や湿度など細かく職員が管理をしている。できるだけ清潔な環境で生活できるように心掛けている。	利用者と一緒に制作した貼り絵を壁に飾っている。ソファやテレビが置かれてゆっくりくつろげるよう工夫している。空気清浄機が置かれており清潔な環境づくりに心掛けているのが伺われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で、くつろぐ時間が取れるように職員が配慮をしている。共通の趣味や交流が図れるように、ご本人様の情報をもとに、席の配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅のお部屋に近づけられるように、ご家族に協力を依頼し荷物の準備をしてもらっている。できるだけ心が落ち着けるように、写真や思い出の品を飾ったりと工夫をしている。	自宅からテレビや小物、家族の写真などが持ち込まれこれまでと変わらない生活の雰囲気づくりをしている。窓が大きく日当たりがよい。外の風景を眺める事もできゆっくり過ごすことが出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はもちろん、共有スペースは、安全第一に机や椅子、ベッドなどの配置を考えて環境整備をしている。転倒事故を起こさないように、ご利用者様の動線を考え、動きやすいようにしている。自分の居室やトイレが分るように、目印をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	4490300227		
法人名	特定非営利活動法人 福祉の里なかつ応援隊		
事業所名	グループホーム こもれびの里 北ユニット		
所在地	大分県中津市大字伊藤田1064番地1		
自己評価作成日	令和6年12月27日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和7年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①施設職員が月に1回地域の清掃活動に参加している。②施設の畑で育てた野菜を少量ではあるが利用者様へ食材として調理し提供している。また畑にある栗の木から取れた栗を毎年渋皮煮にしておやつとして提供できている。③個々のケアプランに沿ってスタッフが協力し介護を行っている。④職員と利用者様が一緒に風船バレーなどを楽しんでいる。YouTubeで楽しく体操をしたり、午後からは好きな歌を聴き一緒に口ずさんだりして、楽しく過ごしている。⑤季節ごとにお花見や餅つき、神楽舞など地域の行事に参加できるようにしている。⑥天気の良い日は施設周辺を職員と利用者様で散歩している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームこもれびの里 南ユニット】に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、理念の唱和を行い、職員全員に周知してもらい、意識をもって実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、地域の清掃活動を実施して、職員が主に参加をしている。地域の区長さんや民生委員さんに運営推進会議の委員になっていただき、定期的な情報共有と意見交換をさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、グループホームの業務運営の方法や認知症に特化した支援方法、制度内での決まりに沿ったケア方法などを広く知っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催を定期的に行っている。意見交換を行い、頂いた助言は施設運営に反映させて頂いている。会議の報告は、中津市や担当の包括センターに都度行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議には、中津市・中津市地域包括支援センター三光園の担当者に参加をして頂いている。施設の運営について報告をし、情報共有を図りながら、多方面のアドバイスを頂いている。(資料確認も含む)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットスタッフ間で声掛けを行い、ホールには常に1名の見守り者を配置し、誰がどこに居るかを確認できる状態で見守り強化を図っている。玄関付近に格子戸を設け鍵をかけないケアをしている。禁止事項の内部研修や周知を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束等の権利擁護について学ぶ機会をつくっている。管理者や職員間では、小さなことでも虐待につながらないように、接遇などの内部研修などを繰り返し行っている。(年間の計画に入れて実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は日常生活自立支援事業・成年後見制度について、テーマを取り上げての研修はできていないが、権利擁護の内部研修時に、内容に少し触れることが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、必要時はその説明と理解を得ている。料金的なことは、都度書面で説明を行って、理解を深めていただいている。契約書や重要事項については、変更があればその都度説明を行っており同意書署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスが5類に引き下げられているが、市中の状況から、今年度の家族会は実施できていない。都度ご利用者様やご家族からはご意見を伺ったり、ご意見箱設置し投函依頼をしている。家族通信や電話で生活状況をお伝えしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定期的にスタッフの全体会議を実施。意見交換や情報提供の機会を設けている。管理者はスタッフに対して個別に面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的、または必要時に管理者が職員と面談を行い、個人的に意見を聞いたり、職場環境についても見直しができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、現場でのスタッフの業務内容と力量を把握し、それぞれ職員のスキルアップと研修参加を促している。職員に平等に研修の機会を作るようにしている。それぞれのユニットに主任、副主任を配置し、OJTを行いながら指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市内のグループホーム連絡会議に定期的に参加して、情報の交換を行っている。(今年度は相互訪問などは行われていないため参加はできていない)		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、CM、職員がなるべく多くコミュニケーションを図り、ご本人の思いを引き出せるようにし、不安が軽減できるように働きかけている。ケア会議を開催している。アセスメント時に要望を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所をお考えの段階から、本人やご家族にお困りのことなどの情報を聞き、入所時には聞き取った情報をケアプランに反映させ、ご家族に介護の方法や生活の様子をお伝えしている。ご家族にも確認していただき、意見を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の段階で、ご家族の要望を確認して、当グループホームの施設サービスと合致しているかを見極めている。その方にあった支援の情報提供を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様がそれぞれ持っている能力に応じて、生活支援の中で、できるところをご本人に手伝っていただけるように、職員が配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者、CM、職員が出来るだけご家族と会話をする機会をつくり、ご家族にできることを協力を求め、共同で支援を行っている意識を持つように働きかけている。ご本人とご家族の距離が、遠くならない様にご家族に働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者や職員は、ご家族、友人、近隣の知人など面会の機会を大切にしている。ご本人様の生活の様子を詳しくお伝えして、安心をして頂く様に心掛けている。(施設外の感染症の状況を確認しながら緩和している)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を大切にしている。聴力障害がある方が多いため、職員が間に入り会話や関係づくりができるように心掛けている。ご利用者様同士の関係を大切にして、助け合えるように、席順など配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に至っても、病院のSWやご利用者様のご家族に連絡を入れて、相談や支援の継続について声をかけている。退居されてもご本人様の様子を伺ったり、ご家族とのつながりが切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接思いを聞き取っている。認知症のため意思を表現できない方は、ご家族に確認をするか、ご本人の様子を観察しながら、思いを察することが出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入居時に、担当していた居宅支援事業所のCMIに情報提供を求めて、個人を理解し内容を把握するようにしている。また、入居後もご本人やご家族に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	⑭で把握した情報を申し送りやカンファレンスを利用して、状態の把握や情報共有に努めている。管理者、CM、スタッフで日々の生活状況を観察し、必要な介護方法や接し方などを都度話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、ケア会議やカンファレンスを開催し、ケアプランの立案や見直しを行っている。モニタリングを継続的に行い、課題を抽出しプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や介護支援経過に日々の記録を残すようにして、介護計画に反映させている。また、申し送り時に情報を共有できるように伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスのみに偏らない様に、地域やご家族のご協力をお願いしながら、ケアプランに反映させて行きたいと思っている。地域密着型グループホームとして、介護サービス以外にも、ボランティアなどの協力も支援と考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービスの特徴を活かして、地域住民との交流や地域資源を利用できるように、少しずつではあるがご利用者様の支援に結び付けている。地域の行事に参加したり、施設周囲を散歩、コスモス祭りの見学などを行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携をとりながら、慢性疾患や認知症が増悪しない様に、体調管理に努めている。ご家族と協力しながら、病院受診や薬の管理を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が同じ職場内で、情報共有や相談が出来るような体制をとっている。管理者に看護職がいることで、常日頃より医療的な問題は早期に解決できるように心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院の医療連携室と連絡を取りながら、退院に向けて支援を行っている。病院への情報提供や、家族と連携を取りながら関係性を深めている。病院の主治医や現場スタッフ、相談員などと情報の共有ができるように連絡を密にとっている。(コロナ禍で制限があり面会は控えている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況を見ながら、重度化や終末期の書類の確認をさせていただいている。ご家族様のご要望を確認したうえで、ご利用者様の状態に応じ、主治医とご家族様との話し合いをその都度行い書類の内容を見直ししながら、施設の対応方法を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらかじめ、急変の恐れがある利用者様については、管理者が職員に指示を出して対応できるようにしている。管理者と連絡が取れるような体制を作っている。職員の連絡網や緊急連絡先を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練(防火訓練)を実施している。自然災害についても運営推進会議などで地域の方にも意見を頂き、対応方法について、施設の考えを伝えている。今年度は、夜間想定避難訓練を実施し、施設理事の方々にも協力が得られた。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に掲げ、職員一同心掛けている。気になることがあれば職員間で注意をしあったり、管理者がその場で指導をするようにしている。接遇や権利擁護の研修を行い職員が意識をもって仕事に取り組めるように声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の表出が出来るように、管理者、職員がご利用者様に働きかけを行っている。できない方は表出しやすいように言い方を変えたり、職員がくみとることが出来るように努めている。ご家族と連絡を取り、代わりに意見を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけご利用者様の生活のペースで、お手伝いをするように心がけている。毎日の生活に変化が持てるように、ご利用者様と相談をしながら、支援をしている。ご利用者様の趣味や特異なことを優先して、職員が働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族がお持ちになった衣服を中心にその方にあったコーディネートで職員が選んでお手伝いをしている。髭剃りや整髪は職員が声をかけ気配りをしている。ご本人の意向も取り入れてお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設では、併設の施設内で調理したものを、昼・夜と提供している。基本的に職員が準備や後片付けを行っているが、ご利用者様の意欲や状態に応じて職員が声をかけて協力を依頼している。(おやつや団子作りなど)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは、施設の厨房で管理をしており、栄養バランスに心掛けている。現場の職員が食事や水分が十分に摂れているか、チェック表に記録をとりながら管理している。食事以外の捕食を取り入れカロリーや水分量に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員が管理をしながら、各ご利用者様が行っている。一人でできない方は能力に応じて職員がお手伝いをしている。夜間は義歯の消毒を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った方法で、排泄の手伝いをしている。オムツ装着中の方でも、日中はできるだけトイレでの排泄が出来るように職員と工夫をしている。個々の排泄パターンをアセスメントして、ケアに活かしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜多めで、バランスよく作られている。水分チェック表で飲水量の管理をし、運動が十分できない方は主治医に下剤や緩下剤処方方を依頼している。体操などで体を動かす時間をつくっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回を基本としているが、時間はゆっくりとれるように工夫している。状況に合わせ臨機応変に対応できる体制を作っている。ADLにより入浴方法もご利用者様に合った方法で支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のバランスが取れない利用者様には日中の過ごし方や眠剤の利用など、主治医に都度相談している。個々の夜間の過ごし方も、状況や要望を確認しながら支援をしている。安眠できるように、日中の過ごし方にも配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者とスタッフが協力し体調の観察を行っている。服薬管理、定期的な受診は主に看護師が行い(家族の協力もある)、主治医や薬局との連携に努めている。スタッフ間で情報共有をし、誤薬に留意しながら、現場スタッフが投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様の嗜好や楽しみなど、個別でそれぞれが時間が取れるように、職員が支援をしている。個人的でなく、他のご利用者様と共有できるように職員が配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人のご要望をお聞きして、自宅への外出を行っている。(ご家族の協力が得られる場合に職員も協力)。施設行事で出かけることが多いが、新型コロナウイルスが5類になり、お誕生日に家族と出かけ食事をしたりする方もあった。状況に合わせて家族と相談し対応を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理者が利用者様の小遣いを管理して、必要な物の購入や支払いをしている。買い物支援の外出の機会がとりづらく、職員やご家族がご本人様の要望にお答えして、買い物を行っている。(管理者、担当職員で対応)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴がある利用者様が多いため、電話での会話がしやすいように管理者や職員が手伝いをしたり、手紙を代読しご本人にお伝えできるように努めている。ご本人が電話の利用を希望された場合は職員が手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るように目につく場所に花を飾ったり、ご利用者様の作品を展示したりと工夫を行っている。室温や湿度など細かく職員が管理をしている。できるだけ清潔な環境で生活できるように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で、くつろぐ時間が取れるように職員が配慮をしている。共通の趣味や交流が図れるように、ご本人様の情報をもとに、席の配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅のお部屋に近づけられるように、ご家族に協力を依頼し荷物の準備をしてもらっている。できるだけ心が落ち着けるように、写真や思い出の品を飾ったりと工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はもちろん、共有スペースは、安全第一に机や椅子、ベッドなどの配置を考えて環境整備をしている。転倒事故を起こさないように、ご利用者様の動線を考え、動きやすいようにしている。自分の居室やトイレが分るように、目印をしている。		